

『精霊使いの剣舞 18 帝都奪還』

イラスト誤掲載に関するお詫び

いつも MF 文庫 J をご愛読いただき、誠にありがとうございます。

2018 年 5 月 25 日発売『精霊使いの剣舞 18』におきまして、収録イラストの掲載ページに誤りがございました。

本書をお買い上げいただいたお客様、志瑞祐先生、≠鯖コハダ先生をはじめ関係各位には多大なご迷惑をおかけいたしますことを深くお詫び申し上げます。当該箇所の詳細は、以下のとおりです。

- ・ 209 ページ及び 238 ページに、それぞれ掲載されるべきイラストが、入れ替わっている。
※正しい掲載ページをご用意いたしましたので、「別紙」をご参照ください。

なお、本書の電子書籍版は、順次配信データの修正を行いますが、紙書籍版につきましては、重版分より修正を予定しております。

今後は再発防止に向け、より一層注意を払い書籍制作に努めてまいりますので、これからも MF 文庫 J ならびに『精霊使いの剣舞』シリーズをご愛顧くださいますよう、何卒お願い申し上げます。

2018 年 5 月 25 日 MF 文庫 J 編集部

全員が竜使いの騎士で構成された〈飛竜騎士団〉は、大陸最強とも名高い。ドラクニアが、頑ななまでに大型の飛行艇を建造しようとしなのは、飛竜騎士よりも機動力の劣る軍船に、戦略的価値を見出せないからだとさえ云われている。

月明かりの下、数十頭の飛竜の群れが整然と編隊を組む。

地上のウィンターガルフ城では、盛大なかがり火が焚かれ、ローレンフロスト伯爵家に仕える兵士たちが、着々と戦支度を整えていた。

フィアナは、ルビアと共に甲板に立ち、兵を鼓舞していた。

「中立派の諸侯は、まだ態度を決めかねているようですね」

前方にそびえるキリア山脈を見つめながら、フィアナが口を開く。

彼女が密書をやり取りしていた諸侯の何人かは、拳兵を約束していたものの、結局、呼応して動いたのは、反アルネウス派の諸侯のみだ。

「まだ趨勢がわからぬ以上、動きはしないだろう。だが、学院の奪還に成功すれば、流れはこちらに傾く」

ルビアは、感情の起伏を感じさせない声で、そう答える。

フィアナは舷側の手摺りから手を離した。

「クレアのことを、心配ですか？」





これはもともと学院にあった〈門^{ゲート}〉の遺跡で、クレアも使ったことがある。

「遺跡だわ！」

「増援が来る前に、壊してしまうわよ」

「ええ、わかってるわ！ 舞え、破滅呼ぶ紅蓮^{ぐれんほのお}の焰よ——〈炎王^{ヘルフレイズ}の息吹〉！」
クレアは走りながら、炎属性で最強の精霊魔術を放った。

だが——

「……な、なに!？」

遺跡に刻まれた〈古代精霊語^{ハ・エレンシエト}〉のルーンが光り、炎はかき消されてしまう。

「……つ、並の攻撃じゃ、破壊できないみたいね」

〈聖国〉の連中が、〈結界^{エレンタル}を幾重にも張っていたようだ。

……これでは、〈精霊魔装^{ウァツフエ}〉で何度も破壊を試みる必要があるだろう。

そんなことをしているうちに、増援の部隊がきてしまう。

「闇精霊、あんたなら、壊せる？」

「……できるけど、さすがにちょっと時間がかかるわね。もちろん、カミトが精霊魔装と
して使ってくれれば一撃だけど」

「はいはい」